２０２３年　全国高校放送コンテスト・愛知県大会

ドラマ部門　全体講評

みなさまの作品は、どれも「思い」に満ち溢れており、なかには感動の余り目頭が熱くさせられるものもありました。

テレビドラマ部門では、高校生活を過ごしているみなさまが、どのようなことを考え青春時代を過ごしているのかを感じ取ることができました。映像の表現は多彩で自由な発想が溢れ、オリジナリティ溢れる工夫が施されている作品も多く、放送現場に立つ者としても参考になる素晴らしい作品が多々ありました。

評価の視点としては、作品を通じて伝えたいメッセージが明確であるか、また演出技法に独自性があり、その技法がメッセージの伝達に役立っているかを重視しました。実写だけでなく、イラストを用いて内面の変化を描き出す手法や、主人公の感情に連動して画面の明るさが変化するといった工夫も注目しました。こうした工夫が作品のメッセージに有機的に結びついて説得力を持ちます。演出と作品のテーマが如何に結びついているかを意識しつつ制作を進めていただきたいと思います。

ひとつ注意していただきたいのは、作品が「わかりやすい」ものになっているかということです。音楽、台詞、現場音のバランスが適切でなく聞き取りにくい作品や、画面の解像度が十分でなく文字が読みにくい作品もありました。深く考えて作成された台詞も、伝わらなければその努力は水の泡になってしまいます。編集段階で、内容を知らない友人や先生に見てもらい、「わからない部分はありましたか？」と尋ねることをお勧めします。初めて視る人でも理解できる作品になっているか、注意していただきたいと思います。

ラジオドラマ部門では、独自の世界観が炸裂している作品が多くありました。現実ではありえないような設定やファンタジー性を含む作品も多くあり、個性が際立つ作品ばかりでした。評価を大きく動かしたポイントの一つとして、物語の「終わり方」があります。視聴者の予想を超える終わり方を見せる作品は強い読後感が残りました。特に、「模範解答的」なものにとどまらず、独自のメッセージを感じさせる結末の作品からは新鮮な驚きを感じ、深く刺さるものがありました。

多様なメディアが存在するなかで、みなさんが放送に興味を持っていただけていることは、放送関係者として大変うれしく思っています。これからも皆様の「思い」を大事にしつつ、創作活動を続けていただけることを心から願っています。

ＮＨＫ名古屋放送局コンテンツセンター（制作）

小竹　良弘